「テクノロジーと人間の尊厳」について

十五代　沈　壽官

chat GPT は生成系人工知能（ＡＩ）の一つで、文章を書いたり、要約したり、絵や音楽や映像条件などの創造的作業を「瞬時」にこなします。

これまでの「検索」と違うのはＬＩＭと呼ばれる自然な言語によって、あたかも人と対話しているかの様に完成される点です。

「擬人性」の面白さは、同時に、人間ならではの領域にＡＩが入り込んでくるのでは？という不安を引き起こしつつあります。多くのホワイトカラーを不安にさせたのは、自らのスキルの賞味期限です。従来求められてきた、正確無比な計算力、全体を掴む分析力、精緻に報告したり、概要をまとめる文章力、外国語を駆使する力がＡＩに取って変わられる不安です。

産業革命時に多くのブルーカラーが失職したように、今度は大量のホワイトカラーが失職するのではないかと。

漠然とした不安はやがて恐怖に変わり、失職だけにとどまらず、簡単な言語で依頼すれば素人でも成果物を生成出来る事から、サイバーセキュリティ、ゲノム編集、軍事安全保障などの領域で問題が起こるのではないか？と恐れ始めているのです。

悪意を持ってＡＩを使えば、精巧なフェイクニュースも生成可能で、技術の怖さを知らずに「刃物」が人間の存続を脅かすかも知れません。

倫理や法理の整頓がなされないまま高速で進化するＡＩが制御不能となる危険は、世界中で指摘されています。

しかし、一方ＡＩが精度の高い仕事をするのは、人間が的確な指令を与えたからに他ならず、人々は「自分だけの助っ人」を得たとも言えます。微細化された半導体は血管の中に楽に入り込み様々なデータを収集し、画像で送ります。膨大な症例から最適な治療法を瞬時に見つけ出すＡＩは医師の有能な助手となろうし、地球温暖化の様な大規模解析が必要な科学者にとっても有益です。

「ＡＩはドラえもんか？それともターミネーターか？」と悩む所がここなのです。

もしも、ＡＩがドラえもんであるなら、我々はＡＩを活用し、仕事を肩代わりさせる代わりに、自らの趣味や或いは別の仕事に就く事で人手不足を解決できるかも知れません。

しかし、そこにも問題があります。例えばタクシーやバスを全て自動運転の無人車に変えたとしても、想定外の事が発生し、人命が失われたとするならば、その責任は誰にあるのか？それぞれのケースに於いて過失責任のレベルと、責任者が決められるべきで、そうすると車メーカーは当然及び腰になるでしょう。

又、将来的に更に高度化した超微細半導体が脳内に入り、その仕組みを学習したら、やがて人間以上の知能を持つことは想定内であります。何せ彼らは２４時間、３６５日学習し続け、更にそこに量子コンピュータが加わるのです。これがターミネーター化への恐れであり、そうなれば、もはや無敵と言っても

良いかも知れません。

そこに人間の尊厳はどの様に関わって行くのでしょう。

テクノロジーの語源はアリストテレスの「テクネー」（手助け）です。したがって、人の尊厳とは、拒否出来ることであり、自己決定権があるという事であります。尊厳を護るという事は当然ＡＩに支配されないという事なのでしょう。

現在中国では赤信号を渡ると、目の前の電光掲示板にその人の名前が瞬時に示されます。全ての国民は顔認証されていてプライバシーは一切ありません。

専制國家にとってのテクノロジーは支配者の「手助け」となっているのです。

この場合、支配者から見たらＡＩはドラえもんであり、国民から見たらターミネーターとなります。

この様な社会に人間の尊厳があるのでしょうか？

事実、人間の尊厳には様々あります。

例えばアフガニスタンの様な戦地やアフリカの砂漠地帯に生まれた人々は貧困です。しかし、これは彼等の責任ではありません。彼等に対し、我々は単にラッキーだっただけだと言わざるを得ません。

つまり、富裕層は貧困層に借りがあり、そこと如何に連携するかが、大切なのです。

しかし、現実社会では、裕福な人が貧しい人を利用し、能力のある人が持たない人を利用して利益を得ています。金融資本主義、株式至上主義、国家至上主義というグローバル

経済がひたすらに自己の利益のみを貪欲に追求し過ぎてきたのです。

そこに全ての人の等しい尊厳が存在するのでしょうか？

北朝鮮の貧しい家庭に生まれた子供と金正恩氏が同等の尊厳を持つ事はあり得ません。

しかし今や世界では様々な分野で２千兆円を超えるＳＤＧｓへの取り組みが行われていると聞きます。

それらは、大きく捉えると地球の為の倫理的善行であり、人類が共通の理性を持つとされる啓蒙思想に基づいていると考えます。

地球環境を改善し、同時に自社の永続性を高める為に、富の分配を倫理的価値観によって行い、それを会社の繁栄と両立させる事は不可能では無く、その利益の公平な配分は、社員に対してであり、コミュニティに対してであり、更には地球環境に対してであるべきです。

即ち、社員、株主、取引先、サプライヤー、地域、地球までもがステークホルダーであるという思想です。「ＳＤＧｓ」とは、地球生命体との共生であり、富めるものと、そうでは無い者の共生であり、又、対立する会社や国家との共生でもあるという事です。

つまり、繰り返しますが全てのステークホルダーとの共生であると言う概念です。

そして、そのためのテクノロジーであるべきなのでしょう。

これから、生成ＡＩがどこまで行くのか？おそらく今後２０年間で３０万倍の成長を遂

げると言われるＡＩ。

私には到底予測不可能ですが、その事に漠然と怯えていても仕方のない事だと考えます。

ここで、リチウムイオン電池を開発した吉野彰先生の言葉で締めくくりたいと思います。

（以下、引用）

「現在から」、ではなく、「過去から」、未来を見ることです。

今、世の中でトレンドと言われている情報をたくさん集めて未来を予測しようと試みても、変化のスピードが早く、情報が溢れている状況下ではピシッとした照準を絞ることができない。ＩＴ革命で、時代はめまぐるしく動いている。

将来の予測をする上で重要になるのは、（1）過去数十年という短いスパンで人類の歴史を眺めて、過去から現在までの変化をたどってみることです。もう一つは、（2）過去１０００～２０００年という長いスパンで人類の歴史を捉え、大きな流れをつかむことです。私は、長短のスパンで時代を読むのが大切だと思う。

技術というものは、日進月歩で変わります。しかし、次々に便利なＩＴツールが登場しても、〝人間の本質〟というものはそう大きく変わりません。

世の中は、なぜ今日のように変化してきたのか、どうして人々の意識は移り変わったのか、過去の歴史で似たような事例はなかったか、現代の変革で参考になる出来事はなかったか。過去からの歴史の延長線上で５～１０年の近未来と２０～３０年の中長期の未来を想像する。自ずと、照準は絞られてくるはずです。